

実践⑭ オリオン文庫(鹿児島市)

1997年(平成9年)1月、我が町伊敷ニュータウンに福祉館ができて間もなく、児童ルームにて文庫活動を始めた。設置してもらった本棚に市立図書館から団体貸出を受けた本を並べてスタート。地域の子供たちに親んでもらいたいという願いを込めて、星座の中でも見つけやすいオリオン座から名前を取り「オリオン文庫」とした。我が町の公園には星座の名前がついており、星のきれいな町だから。

当時、幼児を連れて毎週通って来てくれた方がスタッフにもなってくれた。現在、二人で続けている。当時は小学生で賑わっていたが、児童数も激減し、いつしか乳幼児と母親(時には父親も)がメインとなった。

毎週木曜日 15時半から 16時半の文庫の時間は宮沢賢治作詞の「星めぐりの歌」で始まる。♪赤いめだまのさそり～オリオンは高く歌い露と霜とをおとす♪オープニングの曲として毎回歌っていると、親子で口ずさんでくれるようになる。産休・育休中には常に参加して下さっていたが、仕事に復帰した後あまり参加できなくなったという親子が久しぶりに来て「家でいつも歌っています。これを歌うと機嫌がよくなるんですよ。」と話してくれた。うれしい限りだ。歌に続いて、くまさんの手袋人形を使っての詩、絵本の読み聞かせ、誕生月の子どもが参加の時に、おはなしのろうそくをともしての語り(ストーリーテリング)、布やお手玉を使ってのわらべうた、指遊び、本の貸出しを行っている。クリスマス会ではこれらに加えて、大型絵本の読み聞かせ、ツリーの飾り付け、折り紙遊び等を楽しんでいる。



気付いたら24年の月日が経っていた。我が子への読み聞かせに始まり、地域の子供たちと楽しみを分かち合い、語りと絵本の勉強会を続け、講演会や原画展にせっせと出掛け、伊敷台小学校でのおはなし会の手伝いをし、依頼された保育園からのおはなし会を受け、今に至る。

古典といわれる絵本や児童書を紹介したり、年齢に応じた絵本の選び方、昔話を読んであげることの必要性などをアドバイスしたりしている。

子育てはあっという間。絵本を通しての親子のふれあいの大切さを伝えていけたらと思う。生涯を通して傍らに本のある人生を送ってもらいたいと願うばかりだ。

